

中山間地活性化へ 藤枝「ゆらく」隣接地

ふじえだ陶芸村構想の拠点施設の完成イメージ図



陶芸センターと道の駅着手 「村構想」拠点施設に

藤枝市は、陶芸を活用して中山間地域の活性化と交流人口拡大を図る「ふじえだ陶芸村構想」の拠点施設の整備に着手した。瀬戸谷地区の瀬戸谷温泉ゆらくの隣接地に、新陶芸センターと道の駅を新設する。完成は2025年3月の予定。駐車場や周辺道路の工事などを経て26年3月までの開業を目指す。

新陶芸センターは木造平屋建て、建築面積約600平方メートル。別の場所にある旧施設の老朽化に伴い、機能を拡充して移転する。陶芸体験やプロ作家による創作活動といったスペースを備え、年間1万5千人の集客を想定した施設を建てる。道の駅は木造平屋建てで、約430平方メートル。観光などの情報発信機能を持つ休憩所と農産物直売所、カフェ、陶芸作品の展示スペースを設ける。イベントや防災広場として活用する多目的広場も整備する。

整備に合わせ、ゆらくも浴室柱脚の改修、空調と給排水設備の更新、塗装工事を行う。3施設を結ぶ屋根付きの廊下を新たに設置し、一体感を演出する。

(藤枝支局・青木功太)

記事を読んで、問いに答えましょう。

①藤枝市が整備する「ふじえだ陶芸村構想」の拠点施設には、どのような狙いがあるか。

②国内で陶磁器の生産量が多い地域の例を挙げなさい。

③あなたが住む地域で、地域の活性化や交流人口の拡大に結び付けることが可能だと考えられる伝統工芸の例を一つ挙げなさい。

中山間地活性化へ 藤枝「ゆらく」隣接地

ふじえだ陶芸村構想の拠点施設の完成イメージ図



新陶芸センターは木造平屋建て、建築面積約600平方メートル。別の場所にある旧施設の老朽化に伴い、機能を拡充して移転する。陶芸体験やプロ作家による創作活動といったスペースを備え、年間1万5千人の集客を想定した施設を建てる。道の駅は木造平屋建てで、約430平方メートル。観光などの情報発信機能を持つ休憩所と農産物直売所、カフェ、陶芸作品の展示スペースを設ける。イベントや防災広場として活用する多目的広場も整備する。

整備に合わせ、ゆらくも浴室柱脚の改修、空調と給排水設備の更新、塗装工事を行う。3施設を結ぶ屋根付きの廊下を新たに設置し、一体感を演出する。

(藤枝支局・青木功太)

藤枝市は、陶芸を活用して中山間地域の活性化と交流人口拡大を図る「ふじえだ陶芸村構想」の拠点施設の整備に着手した。瀬戸谷地区の瀬戸谷温泉ゆらくの隣接地に、新陶芸センターと道の駅を新設する。完成は2025年3月の予定。駐車場や周辺道路の工事などを経て26年3月までの開業を目指す。

陶芸センターと道の駅着手 「村構想」拠点施設に

記事を読んで、問いに答えましょう。

①藤枝市が整備する「ふじえだ陶芸村構想」の拠点施設には、どのような狙いがあるか。

(例)

陶芸を活用して中山間地域の活性化と交流人口の拡大を図ること。

②国内で陶磁器の生産量が多い地域の例を挙げなさい。

(例)

岐阜県的美濃地方で作られている焼き物は美濃焼と呼ばれ、「日本三大陶磁器」の一つの生産地として有名である。

※瀬戸焼、有田焼の例もある。

③あなたが住む地域で、地域の活性化や交流人口の拡大に結び付けることが可能だと考えられる伝統工芸の例の一つを挙げなさい。

(例)

- ・日本三大綿織物産地の一つに数えられる遠州織物。
- ・現在も島田市で作陶が受け継がれている志戸呂焼。
- ・大井川周辺に自生する葛を使った大井川葛布の制作。

など

年 組 名前

作問者：NIEアドバイザー 静岡聖光学院中学校・高校
伊藤 大介 教諭 (中学校／社会、総合)